

## 会議録(1)

会議の名称	第1回飯能市地域包括支援センター運営等協議会
開催日時	令和元年5月22日(水) 開会 午後1時30分 閉会 午後3時10分
開催場所	飯能市総合福祉センター 3階 会議室1
会長氏名	大野 康
出席委員	打田 瑠美 海老原 幸子 大野 康 桑山 和子 斎藤 明 志田 朝夫 角田 七重 林 真由美
欠席委員	
傍聴者の数	0人
会議次第	別紙のとおり
配布資料	別紙のとおり
事務局	健康福祉部長 田中 雅夫 介護福祉課長 五十川 美也子 主幹 大河原 正好 主査 村野 仁 主査 平沼 正行 主査 栗島 祐介 主任 金子 美知加 主事 三村 和也

## 会議録(2)

### 議事の概要（経過）・決定事項

- 1 開会
- 2 田中部長あいさつ
- 3 五十川課長あいさつ
- 4 議題
  - (1) 地域包括支援センターについて
    - ① 平成30年度各地域包括支援センターの総括について
    - ② 令和元年度各地域包括支援センターの運営方針について
    - ③ 地域包括支援センターの活動報告について
    - ④ 多問題ケースの報告
    - ⑤ 地域包括支援センターの職員変更について
  - (2) その他
- 5 閉会

### 会議録(3)

発言者	発言内容
平沼主査	(開会)
大野会長	<p>(資料5の非公開の承認)</p> <p>「(1) 地域包括支援センターについて ①平成30年度各地域包括支援センターの総括について、②令和元年度各地域包括支援センターの運営方針について」を議題とする。</p>
平沼主査	(資料に基づき説明：資料1から資料2)
大野会長	飯能市の地域包括ケアシステムの観点から意見を伺いたい
桑山委員	<p>平成30年度の課題に基づいて令和元年度の運営方針に明記されていない。数字目標に対する実際に行った事業が分かりにくい。</p> <p>事務の効率化をはかるべき。会議が多いことや課題が包括に集中している。</p>
齋藤委員	<p>在宅介護支援センターを所有している包括と所有していない包括がある。広範囲の地域を所有している包括は件数が多いため、対応に限界がある。在宅介護支援センターを所有している包括は対応ができるが、所有していない包括は全て引き受けてしまうため、対応に限界がある。職員数を増やすことや、対応区域の見直しが必要である。</p> <p>包括の負担を減らさないとサービスを受ける人の利益につながらない。</p> <p>認知症初期集中支援チームの制度について、早急な対応を要するケースが多いため、課題の解決に努めていただきたいと考えている。</p>
角田委員	<p>包括の業務負担が大きい、本来行うべき業務に費やすことができる時間が少なくなっている。業務の効率化に努めていただきたい。</p> <p>地域割りの中で人数負担が課題となっている。職員の配置基準などの見直しが必要である。</p> <p>認知症初期集中支援チームに関して、飯能市の取組が県からも評価をいただいている。</p>

林委員	<p>包括の業務量の見直しや職員の体調管理に関しても委員会に報告をいただきたい。職員の現場の状況を報告していただきたい。高齢者虐待対応マニュアルが完成したため、活用し、マニュアルにおける課題を来年度報告いただきたい。</p>
海老原委員	<p>包括の取組を、飯能市内のケアマネジャーが知らないことが多い。ケアマネジャーが地域に目を向けられていないことが多い。包括の業務の内容を目に見える形でケアマネジャーや地域の住民に報告していただきたい。</p> <p>ケアマネジャーとして自分の担当者のケースに関して以外にも、地域全体に関しても考えていきたい。</p>
打田委員	<p>サポート双柳に登録したが、実際には機能していないのが実態である。登録者が多く、意欲があるが、利用者が少ないため。登録者の士気が低下していくことが問題である。広報や自治会の会報などで周知をしているが、見てない人や自治会をやめる人がいる。自治会をやめる人こそサポートが必要な人である。サポートする側も高齢化している。</p>
池田委員	<p>地域包括支援センターの業務が集中している。本来地域包括支援センターが行うべき業務を見直すべき。</p>
志田副会長	<p>今までの取組を見直すべき。行政の取組と地域住民の考え方の格差がある。地域のコミュニティが育たないと行政の取組が活かされない。</p> <p>現在の制度を最大限に活用できるように、不足しているものを考えていくとよい。</p>
大野会長	<p>行政や地域包括支援センターの取組が地域をつなげることになると考えられる。業務の量に関する見直しは気づいた人が行うことができるが、同じ人が最後まで行うべきではない。</p> <p>認知症や交通事故の問題は国の予測を上回る速度で進んできており、行政や包括が全て対応するのではなく、地域の方に任せることができるものは任せる。包括の職員が動いたことで市民に良い影響を与えている。包括の地区割りなどを勘案しながら職員が快適に働くことができるようにしていただきたい。</p> <p>また、「(1) ③地域包括支援センターの活動報告について」、「④多問題ケースの報告」、「⑤地域包括支援センターの職員変更について」については時間の都合上、割愛とする。</p>

五十川課長	地域包括支援センターの業務の量が増えている。事務局として感じている。本来包括支援センターが行うべきことや、他の機関に委託できることも考えた方が良いのではないか。
大野会長	「(2) その他に関して」を議題とする。
村野主査	(資料に基づき説明：事業所指定の承認について)
平沼主査	各包括から挙がってきている問題、事業内容を伝えることが難しいため、視察をしていただき、直接包括から現状を伺った。今後は事業内容の見直しや地域性の課題を引き続き協議し、今後の包括の運営、地域包括ケアシステム構築に向けて議論、課題を協議していきたい。
志田副会長	(閉会)
<p>議事の内容・概要を記載し、その相違ないことを証するためここに署名します。</p> <p>令和 年 月 日</p> <p>議長の署名 _____</p>	

